

(防災体制の続き)

Q. 防災面から、河川に生えている立ち木などを除去してほしい。

A. 広範囲にわたりますので、県八鹿土木事務所にお問い合わせしました。実施については、現在検討中とのことです。

Q. 中越地震で問題となった水道について、水道管理設後50年近く経過していると思うのですが大丈夫でしょうか。

A. 計画的な基盤整備は大切です。万一、断水したときには、水を広域的にタンクローリーで運びます。

## ◎少子高齢化・定住対策について

Q. 少子高齢化対策はどのように行っていますか。

A. 財政が厳しい中でも若者が定住できるように施策を講じます。

Q. 地域に若者が少なく将来に不安があります。学校跡地を民間の老人ホームにできないでしょうか。

A. 施設を老人ホームとして活用すると、何らかの改築が必要になり、その財政負担が大きくなるので現段階では考えていません。介護保険制度と予防介護に力を入れて対応していきます。

Q. 若者定住促進条例の廃止案の経緯を教えてください。

A. 合併以前の旧町時代より若者定住施策として、「若者定住促進補助金」を支払ってききました。この効果を検証した結果、企業誘致によって若者が働ける環境をつくるなど、新しい方法で若者定住促進を行う方向に移行しようと考えたからです。

## ◎八鹿病院・診療所などについて

Q. 八鹿病院の医師不足の状況を説明してください。

A. 53人の医師が42人に減っています。特に、眼科や小児科などで不足が生じています。医師の確保に努め、患者の立場にたった対応をしなければならぬと考えています。

Q. 八鹿病院の横領事件ですが、12年間と長期であり監査体制の不備を感じます。

A. この件は、再発防止のため、人事異動により監査体制を強化しました。

Q. 八鹿病院が赤字になれば市の負担になるのですか。

A. 八鹿病院は、養父市と香美町(一部)から構成されている組合です。赤字が出ればそれぞれが負担することになります。医師の減少

などから、1日の患者数は700人と減少し、経営内容が悪くなっている状況です。

Q. 八鹿病院の診療体制について、予約はなかなか取れず、診療までの時間も長すぎます。

A. 医師不足がサービス低下の一因となっていると思いますが、管理者として指導します。

Q. 八鹿病院の医師に耳の遠い高齢者など、患者に親切な対応をしていただきたいです。

A. 患者を大切にする医師であるようにと言ってきました。今後も親身な対応を徹底させます。

Q. 医師不足について、例えば八鹿高校の卒業生などにアプローチしてみようでしょうか。

A. 医師については、いろいろな方法で探しています。

## ◎企業誘致について

Q. 企業誘致や定住対策などの情報を教えてください。

A. 市内に8つの空き校舎があり、企業誘致に向けて情報提供と交渉を進めています。旧大谷小では「ウィザス ナビ高校」が来春に開校する予定で、この他にも具体的な話が進んでいます。定住対策については、

合併前から若者定住促進補助金を支払ってききましたが、新しい若者定住策を議会に提案したいと思っています。

Q. 「ウィザス ナビ高校」の誘致経緯を教えてください。

A. 企業誘致については、市役所内に企業立地推進チームを組織して取り組んできました。チームにおいて優良企業への誘致活動などに取り組んだ結果、「ウィザス ナビ高校」の養父市進出が実現しました。

Q. 「ウィザス ナビ高校」の誘致による波及効果を教えてください。

A. インターネットを使用しての学習と年1回2泊3日のスクーリング(学校を訪れて体験学習)を実施するようです。開校により、職員の雇用や宿泊施設の利用などの経済効果が見込まれます。

Q. 企業誘致と既存企業の育成のどちらに重点を置いていますか。

A. 既存企業の振興はもちろん、外部からの企業を誘致することで、産業の活性化を図っていきます。

Q. 法人税を増やすためにどんな取り組みをしていますか。

A. 既存産業の振興に努めるとともに、学校跡地を企業誘致などに利用し、税収を伸ばしたいと考えています。